

A black and white photograph of a railway track receding into a misty forest. The track is made of wooden sleepers and metal rails, leading the eye towards a bright, hazy light at the end of the path. The trees on either side are bare and thin, their branches creating a delicate, web-like pattern against the light. The overall atmosphere is one of solitude and mystery.

理解されなかった選択は、
位置になる

共有されなかったままの選択が、
その人の立つ場所を決めてしまう。

人は、理解された出来事ではなく、
理解されなかった選択によって、
どこに立つかを引き受けている。

その選択は、
正しさとして残らない。

ただ、戻らなかった方向として、
内側に沈む。

それは、誤解ではない。
届かなかった言葉でもない。

言い換えれば伝わったはずのものでも、
時期が違えば受け取られたものでもない。

どこに置いても、
同じように通過してしまうものだった。

だからそれは、
理解されなかった出来事ではない。

理解されないままの位置に、
そのまま留まる選択である。

選択は、残る。
意味ではなく、方向として。

何を選んだかではなく、
何を戻らなかったかだけが残る。

捨てたもの、
切り離した関係、
引き受けた不在。

それらが重なって、
一つの場所になる。

そこには、説明がない。
ただ、動かなかった軌道だけがある。

その場所は、
しばらくは何も生まない。

共有されないまま、
周囲の流れから外れる。

だが、同時に、
そこは他の誰とも重ならなくなる。

似たものがなくなるのではない。
重なりようがなくなる。

時間が経つと、
人はそこを見つける。

理由ではなく、位置として。

理解したからではない。
そこにしか立っていないと分かるからだ。

A misty forest scene with tall evergreen trees and a bright, hazy sky. The trees are dark and silhouetted against the light background. The sky is a pale, yellowish-white color, suggesting a bright light source like the sun or moon. The overall atmosphere is serene and somewhat ethereal.

理解されなかった選択は、
消えずに、場所になる。

Edition — 価値観の航路
別景：理解されなかった選択は、
位置になる

著者：美学思想家 古川玲奈
発行：Raffiné
2026